

タイで発生した 洪水の被害と対応

2011年10月、タイの中部を中心に発生した洪水は、日本企業を含む多くの企業に深刻な被害を与えました。ミネベアグループにおいても、タイの現地法人での操業停止や、工場建屋への浸水(ロジャナ工場、ナワナコン工場)などの被害を受けましたが、当社グループの3つの大規模工場は被害を受けることなく、生産能力を維持することができました。こうした背景には、被害を最小限に食い止めようとする多くの従業員の姿がありました。厳しい環境の中での作業でしたが、従業員は笑顔を絶やすことなく、一人ひとりが会社を守るために作業に取り組みました。

本特集では、洪水発生時から刻々と変化する状況に対し、当社グループが実施した対策・取り組みについてのまとめと、そこで対応に当たる従業員の姿について報告します。



洪水の被害状況と対応

10月1日	洪水の影響で一部従業員の通勤に支障がはじまる。	11日	この日より社長執行役員が現地対策会議に参加。タイ政府との折衝も実施。 ロップリ工場敷地内の水は減少。バンパイン工場でもこの日より数多くの従業員、駐在員の協力を得て土のう積みを実施。ヘリコプターによる周辺地域の情報収集を開始。	19日	臨時危機管理委員会招集。アユタヤ工場周辺の水位は低下傾向へ。
3日	洪水対策支援のため軽井沢工場施設部より施設部長、他1名が渡泰。	12日	社長執行役員離泰。	20日	バンパイン工場操業再開。アユタヤ工場送電復旧し、操業再開準備を始める。 社長執行役員帰国。
5日	アユタヤ工場周囲で土盛堤防構築作業を開始。	14日	社長執行役員帰国。夕刻便で再び渡泰。 ナワナコン工業団地閉鎖。	21日	冠水対策として従業員の通勤にダンプカーの使用を開始。ナワナコン工場内部に浸水。
6日	ロップリ工場家族寮周辺が冠水。ロジャナ工場で土のう積み開始。	15日	従業員の安全確保のためバンパイン工場操業停止。土盛堤防構築作業は継続。被災地域支援のタイ陸軍部隊がバンパイン工場に到着し、堤防構築作業の指導など支援を開始。バンパイン工場に部隊駐屯場所を提供。	24日	バンコク市内の浸水が始まる。
7日	現地対策本部(バンパイン)と緊急対策本部(目黒)を立ち上げ。ロジャナ工場、アユタヤ工場が停電と断水のため操業停止。ロジャナ工業団地より操業停止要請。	17日	ナワナコン工業団地退避命令。この日、バンパイン工場では現地従業員、駐在員、出張者、役員など3,149名が作業。	25日	アユタヤ工場操業再開。
8日	アユタヤ工場家族寮敷地冠水。ロジャナ工業団地が冠水により閉鎖。バンパイン工場にショベルカー15台、ダンプカー15台を投入し、工場周囲に土盛堤防構築作業を開始。	18日	ナワナコン工場浸水。工場内部への浸水を最小限にする対策を実施。工場内の水をポンプで排水。アユタヤ工場上水道復旧。	28日	ロジャナ工場より金型、在庫の回収を開始。
9日	アユタヤ工場の土盛堤防が完成し、さらに従業員、駐在員の協力を得て土のう積みを行う。周辺水位が上昇。洪水対策支援のため人事総務部リスク管理担当者1名が渡泰。			11月9日	ロジャナ工業団地排水開始。
10日	社長執行役員、副社長執行役員や専務執行役員をはじめとした経営幹部が新工場開所式のため渡泰。そのまま現地対策本部に参加。ロジャナ工場1階フロア水没。			10日	ナワナコン工場の工作機械の整備作業を開始。
				18日	ナワナコン工業団地排水開始。
				23日	ロジャナ工場の水位が床面以下に低下、復旧作業開始。
				30日	ナワナコン工場の水位が床面以下に低下、復旧作業を開始。

貝沼社長執行役員ほかによるナワナコン工場内部の状況確認



各工場に周辺水位の定点観測地点を設け、多いときには2時間ごとの観測を行った



重機で作った土盛りにシートをかぶせた土盛堤防。規模が大きいため、大人数での共同作業となる



合計45台のショベルカー、ダンプカーを投入した





避難所での食事の配給



地域住民への食料配布。幹線道路以外ほとんど冠水しているため、ボートを使っての作業となる



1日も早い生産再開を目指し、足元に水が残る中で整備作業を開始。給電も復活しておらず、高温、多湿の厳しい環境下での作業となった



バンパイン工場西側の2重堤防内の水圧調整池の水位をポンプで管理

ステークホルダーへの対応

●お客様への対応

お客様への供給責任を果たすため、一時的な在庫の積み増しや、外注を増やすことで対応しました。輸送においても航空便、船便の出発時間に確実に間に合わせるために、通行可能なルートの確認や渋滞情報を社内各部署で共有し、出荷時間の調整を行いました。

また、現地対策本部では自社ヘリコプターによる洪水の状況確認をほぼ毎日実施するとともに、要請のあったお客様拠点の状況確認を行いました。日本に設置した緊急対策本部では、プレスリリースを6回発表し、被災状況をお伝えしました。

●地域住民への支援

今回の洪水では、工場周辺に住む地域住民にも多くの被害が発生しました。当社グループでは、緊急支援物資の配布や土のうの提供を行い、被災した地域住民を支援しました。また、バンパイン工場ではタイ陸軍部隊に駐屯場所を提供し、被災地支援に向かう軍の後方支援を行いました。今後も地域住民の復旧支援を継続していきます。

●従業員とともに取り組んだ洪水対策

洪水被害を最小限に食い止めるために実施した、土盛堤防構築や排水作業などには、多くの従業員の力が不可欠でした。自分たちの会社を守ろうと、従業員の士気は高く、募集枠を超

えるボランティアの参加や、休日、夜間の作業も快く引き受けてくれる姿がありました。

当社グループでは、作業に当たる従業員の安全衛生管理を徹底し、二次被害の防止に努めました。また、帰宅、通勤が困難となった従業員約500名のために、工場の空スペースを一時避難所として開放したほか、操業停止したロジャナ工場、ナワナコン工場の従業員については配置転換を実施し、全従業員の継続雇用に努めました。こうした、従業員の雇用や安全を守るという会社の意思が従業員に伝わり、信頼関係がさらに深まったことが、難局を乗り越える大きな力となりました。

また、当社グループでは約13,000名の従業員に見舞金の支給を行ったほか、当社グループ全世界の拠点からよせられた義援金を活用して、住宅の被災が特に深刻だった146名の従業員に、壊れた家屋の修理、復旧のための給付金を支給しました。

●環境影響調査の実施

機械や洗浄機からの油、化学物質の流出がありましたが、廃油、廃液や油分の付着した乾燥汚泥などは、法律にのっとり処理しました。また、各拠点で水質調査、土壌調査を実施し、重金属、化学物質などの流出が環境に影響を与えないレベルであることを確認しました。

復旧活動・今後の災害対策

当社グループでは、今回の経験を教訓として、将来の洪水に備えた対策強化を進めています。

浸水被害のあったロジャナ工場、ナワナコン工場では、機械類の全面的な入れ替えおよび整備作業と、建屋内外の清掃を実施し、2012年9月に完全復旧する予定です。この2工場は工業団地内に立地しており、工業団地全体での洪水対策の強化（堤防の建設）が実施されていますが、独自の災害対策として、工場建屋を鉄板で補強し、建屋内に水が浸入しないよう対策をとっています。また、バンパイン工場、アユタヤ工場では、今回の洪水時の水位データを基に、3~4倍規模の洪水にも耐えうる堤防を建設しました（2012年7月完成）。

今回の洪水では、工場の浸水被害以外にも、従業員の出勤が困難だったことや電気の供給が不安定になったことなどにより工場の稼働が低下した期間が生じました。供給責任の観点から、他工場でのバックアップ体制の整備や、在庫戦略の見直しを実施するなど、今回の経験を今後の対策強化に生かしています。

従業員一人ひとりが会社を守るという強い意志を持ち、協力してこの難局に臨んだことで当社グループの団結力は一層強くなったと確信しています。今後もこの団結力を生かし、災害対策の強化に取り組んでいきます。



多くの従業員が日没後も作業を続けた



ロジャナ工場ダイバーによって回収された金型。部品の生産再開への重要な一歩となった



自宅が被災した従業員のため、新ベアリング工場の空スペースを一時避難所とした。避難所の従業員も毎日職場へ出勤し、そして防水作業へ参加した



バンパイン工場に新設した堤防